

学校法人拓殖大学
拓殖大学北海道短期大学
機関別評価結果

平成 28 年 3 月 10 日
一般財団法人短期大学基準協会

拓殖大学北海道短期大学の概要

設置者 学校法人 拓殖大学
理事長 福田 勝幸
学 長 篠塚 徹
A L O 畠田 英夫
開設年月日 昭和 41 年 4 月 1 日
所在地 北海道深川市メム 4558

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
農学ビジネス学科		150
保育学科		80
	合計	230

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

拓殖大学北海道短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 28 年 3 月 10 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 26 年 6 月 19 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神を「拓殖大学の伝統である開拓者精神を継承し、実践的な知識や技術と豊かな人間性を兼ね備えた、広く社会の発展に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする」とし、ウェブサイト等を通して学内外に表明している。さらに、新入生オリエンテーションでは、建学の精神をうたった「拓殖大学校歌」の意味と歌を指導し、また年度当初の一定期間、学内放送で流すなど、建学の精神を学生に浸透させている。その建学の精神に基づき、教育目的・目標、学習成果が構築されている。学習成果は学内外に表明され、学科改編で頻繁に点検されている。自己点検・評価の規程や組織は整備されている。自己点検・評価活動は FD 活動に含まれ、FD 講習会での活動報告によって示されている。

三つの方針を明確に定めている。学習成果の達成が困難と予測される学生に対しては、個別指導を授業時間外に行うなどしている。メンタルな問題や生活上の相談事を持つ学生に対しては、専門医の委託、ゼミナール担当教員の個別指導等で対応している。

学生支援制度としては、有資格者に対する単位認定制度、奨学生制度、資格取得支援制度（取得にかかわる経費の一部支給）等があり、公共交通機関を利用する自宅通学生に通学費の一部を補助している。

農学ビジネス学科の実習農場では、様々な作物が栽培されているが、特にこれまで北海道で栽培されていた稲の全てを栽培している。

保育学科を中心として全学的に取り組んでいる「拓大ミュージカル」は、単なる 1 科目という範ちゅうを超えて、地域活動・地域貢献の一翼を担うイベントとなっている。

全ての入学試験において面接が課せられており、入学者受け入れの方針に対応した面接項目を設定するなどして公正な入学者選抜を実施している。

教員組織は、短期大学設置基準に定める専任教員数・教授数を充足し、学習成果達成のための教育課程に沿って編成されている。校地、校舎の面積は、短期大学設置基準の規定を充足し、実習農場、屋外運動場敷地、広場等も確保している。学内の情報設備は、情報ネットワーク管理会社との提携の下、基礎的な情報リテラシーに十分対応する情報教育用コンピュータ機器、ソフトウェア等を随時更新し、教育環境の充実を図っている。

学校法人全体としては、過去3年間の教育研究活動のキャッシュフローはプラスであるが、短期大学部門では帰属収支の支出超過は続いている。学校法人全体の消費収支は、現在展開している「拓殖大学ルネッサンス事業」により、建物改修工事等で支出超過になったが、これらは学校法人全体の将来の経営安定に資する投資とみられる。

理事長は学校法人を代表し、その業務を総理している。理事会は、私立学校法及び寄附行為により学校法人の最高意思決定機関であり、毎月定例会議を開催している。学長は、大学運営にふさわしい人物でリーダーシップを発揮している。また、様々な告辞等の機会において建学の精神の大切さを強調している。教授会は、教授会規程に基づき、審議機関としての詳細が定められている。理事長及び学長は、建学の精神に基づいて質の高い教育を行うことを重要な責務とし、学校法人の全体最適を目指し、地域における行政・地元との深い連携を構築している当該短期大学を継続し、更なる発展を目指し、リーダーシップを発揮している。監事は、寄附行為に基づき、学校法人の業務及び財産の状況を監査するとともに、常務理事会に出席して同法人の業務又は財産の状況について意見を述べている。評議員会は、理事定数の2倍を超える評議員で組織されている。ウェブサイト等を活用して、外部からの評価にも資するべく、積極的に教育情報及び財務情報を公表・公開している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマA 建学の精神]

- 短期大学の役割を一貫して建学の精神に置き、地域に求められている実践的知識と技術を供与し、農業セミナー、農場公開デー、拓大ミュージカル公演等の諸イベントを介して、地域農業や地域文化の発展に寄与している。

[テーマB 教育の効果]

- 各教員は、「教育活動、研究活動、社会貢献活動、管理運営活動」の四つの領域について、自己評価点による量的評価を実施している。これは「教育・研究業績一覧」に記入して学務課に提出されており、建学の精神にのっとり教員一人ひとりが社会貢献活動等を項目「学外活動業績」として入れ、改善に取り組んでいる。

[テーマ C 自己点検・評価]

- 「教育・研究業績一覧」での教員一人ひとりの報告欄に「現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価」の項目が設けられ、学習成果についての PDCA が実行されている。また項目「学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み」もあり、授業改善の PDCA が実施されている。さらに、それを全教員が情報共有するだけでなく、図書館に置き、公開している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 併設大学への編入学を考える学生のために、編入学に必要な履修科目等を編入先ごとに詳しい表にするなど、進学を計画的に組み立てることが可能となるような工夫がみられる。

[テーマ B 学生支援]

- 基礎学力養成のための補習授業等を行うなど、学習支援に力を入れる一方で、成績優秀者に対しては、有資格者に対する単位認定制度、資格取得にかかわる経費の一部を支給する資格取得支援制度、奨学金制度の活用や海外研修を勧めている。また、理解速度の速い学生や優秀な学生に対しては「卒論演習」を通じて学会発表等を奨励するなど、質の高い学習支援を実施している。
- 学生支援のための奨学金として、地元の深川市内の高等学校卒業生及び保護者が市内に戸籍を持つ多くの学生に対して、学費の全額免除（深川市からの奨学金支給）、さらに自宅通学生に対しては交通費の一部を大学が補助しており、学生の経済的支援が手厚い。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]

- 学習支援システム（Blackboard）を導入し、履修状況管理、成績管理、授業支援、講義資料や課題の配付・提出を行うなど、効果的な授業が行われている。

（2）向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ C 自己点検・評価]

- FD 講習会での活動記録を自己点検・評価報告書として取り扱っており、規程に沿った形で報告書の内容を充実する必要がある。また、「自己点検・評価報告書」は、前回の認証評価時以降、公表されていないので、その定期的な公表が望まれる。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ A 人的資源]

- FD・SD 活動は活発に行われているが、FD 及び SD に関する規程が未整備のため、規程の整備が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

当該短期大学は、建学の精神の「拓殖大学の伝統である開拓者精神を継承し、実践的な知識や技術と豊かな人間性を兼ね備えた、広く社会の発展に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする」にのっとり、北海道という開拓の地で、地域に求められている実践的知識と技術を供与し、地域の発展に貢献している。

当該短期大学には2学科があり、両学科とも建学の精神にあるように、開拓者精神を基礎とし、地域に実践的知識・技術を兼ね備えた人材を供与しようとするものであり、教育目的・目標は確立され、学科間での不統一はあるが、教育目的・目標は学習成果を示し、「大学生活ガイドブック」にも明示されている。

建学の精神、学科の教育目的・目標、学位授与の方針、学習成果は内容が連続しており、学習成果は教育目的・目標に基づいて示されている。学習成果を測定する手法として、GPAと「学生アンケート等による授業改善」調査がある。学習成果は学内外に表明され、学科改編で頻繁に点検されている。

学習成果の量的・質的データの測定は、基本的には前・後期試験、レポートや製作（制作）物、授業（実験・実習）の取り組み状況等を判断材料とし、成績評価・GPAとして表している。教育の質は授業評価と授業公開、教員評価の実施を通して保証されている。教員評価では、授業のみならず社会貢献や管理運営を含む教育活動全般の改善取り組みが「教育・研究業績一覧」に項目化されている。

自己点検・評価の規程や組織は整備されている。自己点検・評価活動はFD活動に含まれ、FD講習会での活動報告によって示されている。しかし、FD活動は教務委員会が主導しており、また授業公開も教務委員会の主導下で実施されている。全教職員は自己点検・評価に関与しているが、組織的には明確でない。また、「自己点検・評価報告書」は前回の認証評価時以降、公表されていない。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

建学の精神の下、学位授与の方針を反映した教育課程が編成されている。学位授与の方針は、学内外に向けてウェブサイトや「大学生活ガイドブック」で公表するとともに、定期的に点検を行っている。

各学科の教育課程は、学位授与の方針に対応しており、教育課程編成・実施の方針に基づいて教員配置や教育課程編成を行っている。教育課程は、学習成果に対応した分かりやすい年次別展開を基本として、科目別担当表の形式で編成されているが、教員の担当コマ数で過度な時間配分を行っている科目も見受けられ、教育の質を保つことが難しくなる可能性がある。成績評価は、決められた評価基準の下で、シラバスに記載された定期試験、レポート、小テストや実技試験等、複数の査定の方法を用いて適切に行われている。ただし、一部の科目において15回目の授業で試験が行われており、1単位当たり15時間の授業が確保されていなかったが、平成27年度のシラバスから、15回目も授業をすることが確認された。

入学者受け入れの方針は、ウェブサイトや「入学試験要項」等で明示され、年数回行われるオープンキャンパス等を通して受験生や保護者に十分な説明がなされている。

学習成果の査定は、各学科で取得可能な公的な資格、スキルに関する能力検定試験の合格、ゼミ成果（卒業制作）発表会、拓大ミュージカル公演等で行っている。

卒業生やその雇用者が来訪した際や、進路先を教員が訪問した際に評価を聴取するほか、四年制大学等への進学先の教員と情報交換を行うなど、卒業生の就職・進学後の動向の把握に努めている。集められた情報は学科会議等で各教員が共有し、学習成果の点検に活用するなどしている。

学習支援は、入学式直後及び2年次授業開始直後の修学ガイダンスに加え、研修旅行、ゼミでの少人数制による個別指導等を行い、さらに、履修要項から生活指導まで包括した「大学生生活ガイドブック」の配布や、基礎学力養成のための補習授業等を行うなど、力が入れている。成績優秀者に対しては、奨学金制度の活用や海外研修を勧め、理解速度の速い学生や優秀な学生に対しては「卒論演習」を通じて、卒業論文の発表に際して学会発表等を奨励するなど、質の高い学習支援を行っている。その他、就職支援、奨学金の受付業務、各種ガイダンス、オリエンテーション等の業務を通じて学生支援の充実に努めている。

生活支援体制として、学生委員会が教職員によって組織され、クラブ活動や大学祭等では、大学・後援会からの助成金等により、学生が自主的に活動できるよう支援している。

学生の健康管理については、事務職員が救急措置に備えた体制を取っているほか、「こころの相談室」を設けて専門医による心理的ケアを行い、ゼミナール担当教員を中心に個別相談等が行われている。

入学者選抜では、全ての試験に面接を課し、入学者受け入れの方針に対応した面接項目が設定されている。また、多様な入学者選抜を実施することで、両学科に必要とされる専門分野の学力が総合的に判断できるような試験制度が構築されている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教員組織は、短期大学設置基準に定める専任教員数を充足しており、専任教員の職位は教育実績等、短期大学設置基準の規定を充足している。専任教員の採用・昇任基準については、教員任用規程等の規定に基づき教員選考委員会による審査を経て、適正に行われている。また、教育課程編成・実施の方針に基づいて専任教員と非常勤教員を配置している。

専任教員の研究活動は、各学科の教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげている。研究成果は、紀要や「北海道園芸研究談話会報」等の学会誌・研究会誌に掲載されている。また、教員の研究活動状況が、ウェブサイト上の「教育・研究業績一覧」にて公開されている。

事務組織は、事務組織規程、事務分掌細則等の規定により、各課の事務分掌及び職制を定め、業務量等に配慮したバランスのとれた人員で構成されており、事務組織の責任体制は明確である。専任職員には、能力向上のための外部研修に積極的に参加する機会を与えるなど、資質向上の取り組みを毎年組織的に行っている。教職員の就業に関して、就業規則を基本として、組織に関する規程、人事に関する規程、福利厚生等に関する規程等が整備され、適正に管理している。FD・SD活動は活発に行われているが、規程が整備されていない。

校地、校舎の面積は短期大学設置基準を充足している。バリアフリー対策として、校舎内に障がい者用エレベーターやトイレ、スロープを設置している。図書館は、適切な面積と蔵書数を有している。また、適切な面積の体育館を有している。

有形固定資産及び物品管理細則等、諸規程は整備されており、維持管理を適切に行っている。危機管理にかかわる体制は、「拓殖大学防火管理規程（準用）」に従って「消防計画書」に防災・防火管理に関する必要事項が定められ、定期的に防災訓練が行われている。情報機器関連ではコンピュータシステムのセキュリティ対策を行っている。省エネルギー対策としてウォームビズ・クールビズの励行、ペーパーレス会議の導入等、省資源化に努めている。

学内の情報設備は、情報ネットワーク管理会社との提携の下、基礎的な情報リテラシーに十分対応する情報教育用コンピュータ機器、ソフトウェア等を随時更新し、教育環境の充実を図っている。また、主要教室には無線 LAN を整備しており、学生が持ち込んだパソコンの利用を可能としている。更に、学習支援システム（Blackboard）が導入されており、履修状況管理、成績管理、授業支援、講義資料、課題配付や提出が簡単に行えるなど、効果的な授業が行われている。

財的資源については、平成 26 年度から、学科の改編及び入学定員の見直しを行っており、収容定員充足率は若干ではあるが回復傾向にある。しかしながら、農学ビジネス学科、保育学科共に平成 26 年度から入学者数が減少していることから、財政安定のためにも更なる学生募集の強化が望まれる。また、外部資金の獲得に向けた取り組みが検討されているので、積極的に推進することが望まれる。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は寄附行為に基づき、学校法人を代表し、その業務を総理している。理事会は、私立学校法及び寄附行為により法人の最高意思決定機関であり、毎月定例会議を開催している。理事会は学校法人の目的達成に伴う一切の業務を決する権限を持ち、理事の職務の執行を監督する。学校法人は、寄附行為や財務情報をはじめ情報公開を適切に行っている。

学長は、大学運営にふさわしい人物でリーダーシップを発揮している。また、学長は、様々な告辞等の機会において建学の精神の大切さを強調している。教授会は、教授会規程

に基づき、審議機関としての詳細が定められている。教授会は三つの方針を深く認識したうえで、学習成果があがるように努めている。また、教学組織規程に基づき、教授会の下に委員会を設け、運営している。

監事は、寄附行為に基づき、学校法人の業務及び財産の状況を監査するとともに、常務理事会、理事会に出席して同法人の業務又は財産の状況について意見を述べている。また、毎会計年度監査報告書を作成し、当該会計年度終了後 2 か月以内に理事会及び評議員会に提出している。

評議員会は、理事の定数の 2 倍を超える評議員で組織されている。

学校法人は、平成 23 年に「大学競争を勝ち抜くために」という中・長期的な方針を示し、その方針に基づいた各年度の事業計画・予算計画は、予算編成会議で行われる。短期大学の事業計画と予算はここでの予算編成に含まれている。経理・財務の分野においては、ガバナンスが適切に機能している。ウェブサイト等を活用して、外部からの評価にも資するべく、積極的に教育情報及び財務情報を公表・公開している。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

教養教育の取り組みについて

総評

建学の精神に基づき地域経済の発展や地域幼児教育に取り組んでいるが、それに向けての教養教育は「情報リテラシー」、「コミュニケーション能力」、「自己管理能力」を目標としている。

教養教育の内容としては「拓大ミュージカル」、「研修旅行」、「ゼミ成果（卒業制作）発表会」があげられている。その狙いや成果として、「拓大ミュージカル」では「規範意識と倫理性、感性と美意識、主体的に行動する力、バランス感覚、体力や精神力等を含めた総合的な概念として捉えられる教養」の醸成を期待し、礼儀作法、人間関係力、協調性、ボランティア精神のかん養も期待され、実績を残している。「研修旅行」では「主体的に行動する力、規範意識と倫理性、文書作成の基本」を身に付けている。「ゼミ成果（卒業制作）発表会」では「自主性やプレゼンテーション能力」を獲得している。

実施体制も「拓大ミュージカル」は31年間継続されるなど積み重ねられており、今後学生の自主性を引き出す改善を課題としながら取り組んでおり、実施方法も確立している。

教養教育の効果測定・評価は、各学科の各科目（卒論演習やゼミナール他）の評価に代替されているが、今後は明確なチェック項目による評価で指導方法を改善する計画である。

以上の教養教育の取り組みは、短期大学全体で行われる、総合的な教養を身に付けるアクティブ・ラーニング的活動の役割の有効性を提示しているものである。併せて地域貢献活動にみる教養教育の効果をも示している。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 教養教育に取り組む特色は「拓大ミュージカル」であり、31年間継続している歴史がある。地域や社会において最も必要とされるスキルの一つ、「段取り」についての修得を目的としているが、これは学生の自主性を前提に成り立つものであり、長い歴史の中で地域に根付いているからこそ可能となる取り組みである。

職業教育の取り組みについて

総評

職業教育は、職業生活の実践に必要な基礎的な知識や技術を習得させ、地域の経済や産業を担うにふさわしい人材を育成する役割を担っている、と定めている。

現在は、3校の高等学校と高大連携協定を結び、当該短期大学の教員による模擬授業の実施及び農業クラブのプロジェクト研究発表の審査等に協力している。

農学ビジネス学科では、科目「農業研修」、「インターンシップ」において就職先を意識した企業・団体で15日間の研修を受けることができる。保育学科においては、保育・教育実習（現場実習）そのものが職業教育であるのとらえ、現職の幼稚園・保育所の園長・所長や保育士・幼稚園教諭を外部講師として招いている。

両学科とも多くの場を設けてリカレント教育を行っている。

農学ビジネス学科の教員は、学会や国や道主催の研修会に参加するなどして、職業教育に必要な専門の知識・技術を獲得し、資質向上に努めている。保育学科では、各教員が実務経験の向上に努めるため積極的に保育所・幼稚園・社会福祉施設等を訪問し、職員と交流を図りながら現場体験を積んでいる。

両学科とも職業教育の効果の測定・評価を様々な形で行い、改善に取り組んでいる。農学ビジネス学科の科目「キャリアスキル」の評価に当たっては、形成的評価を適宜実施しながら、学生の将来の仕事遂行能力を高めさせる評価・指導を展開している。また、現場実習の科目「農業研修」や「インターンシップ」において期間中に記録する実習報告書には、日々の自己評価や終了時の事業所経営者（責任者）からの評価がある。それらの評価については、学科会議で検討し、前年度の反省点を勘案しながら、評価の観点・方法の改善を図っている。

保育学科においては、科目「基礎科目入門」、「保育実践演習」、「保育・教職実践演習」等の評価は、学生一人ひとりが履修カルテを作成し、学生自身が自己評価を行うと同時に、担当教員が履修カルテを参照して学生の履修状況や学習内容の理解等を把握して、授業の進め方の参考にするなど、個別の補完的な指導等に活用している。また、現場実習の科目「保育実習」、「教育実習」における評価については、実習先より提出された評価や実習中の実習日誌、指導案等を参考にしながら総合的・形成的評価を実施している。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 平成21年度から、道内の農業高等学校教員を対象とした「農業教育実技講習会・高大連携教育懇話会」を開催している。農業高等学校教育において研修要望の大きい分野の農業教育技術の向上を図る技術研修を実施するとともに、「農と食・環境」にかかわる産業人育成に向けた高等学校と大学の接続を図るための研究協議を実施している。
- 平成25年度から、大学を会場に「高校生のためのサマーセミナー」を開催し、農学ビジネス学科の教員が生物多様性や作物栄養診断等をテーマとするセミナーを実施している。
- 農学ビジネス学科では、農場公開デー及び農業セミナーを毎年開催している。農場公開デーは平成17年度から開催しており、大学OBをはじめ、地域の農業経営者、教育機関、農業関係機関との交流を目的として、実践研究農場での研究の取り組みを広く紹介している。農業セミナーは開学以来、毎年開催しており、開催年の農業情勢や将来の

発展方向を見据えた講演発表とパネルディスカッションを実施し、大学OBをはじめ、地域の農業経営者、教育関係者、農業指導関係者、当該短期大学の学生を交えた農業の実践教育を展開している。また、卒業生が学ぶ機会は大学以外にも「きたそらち元気塾」（新規就農した若手農業者の研修）等の研修に大学教員が指導者として支援している。

- 保育学科においては、「保育セミナー」を毎年実施し、専任教員全員が「幼児の和楽器体験」、「幼児の版画制作」、「アレルギー対策を考える」、「現場で役立つ運動遊び・ゲーム指導」、「創造性を育む保育」等の講座を担当し、多くの卒業生を迎え入れている。

地域貢献の取り組みについて

総評

農業セミナーは、北海道の農業にとって重要なテーマを3～4名の講師の講演と討論というかたちで創設以来開催しているセミナーである。学生の教育のみならず、農業者をはじめとする地域住民にとっても貴重な学びの場となっている。平成26年度時点で48回目となった。

保育セミナーは、保育学科所属の専任教員全員が「幼児の和楽器体験」、「幼児の版画制作」、「アレルギー対策を考える」等の講座を担当し、多くの卒業生をはじめとする幼児教育者を交えて、平成7年度から毎年実施している。卒業生のためのリカレント教育と地域の幼児教育者の研修という二つの面を持つセミナーである。

また、敷地内にある農場を市民や卒業生に公開する「農場公開デー」を毎年開催している。農学を学ぶ2年生が卒論等で取り組む研究の一端を紹介するもので、来場者の多くは地域住民や農業経営者、卒業生、農業関連産業従事者である。その他、ゼミ成果発表会、卒業制作発表会等の際にも、学外参加者の来場がある。

拓大ミュージカル公演があり、ここでは、「ミュージカル」という独自の科目を設定し、学生たちによる数か月の徹底した練習の成果が、観客に感動の舞台を提供している。長年にわたって地域住民に愛されてきた。人口2万3千人クラスの小さな自治体内に六つもの劇団があるのは拓大ミュージカルの影響であり、NPO法人深川市舞台芸術交流協会の設立にも深く関係している。公演会場は基本的には深川市であるが、札幌市、恵庭市、旭川市、鷹栖町を会場としたこともある。

保育学科では、授業の一環として「プチミュージカル公演」や「人形劇公演」等を地元関連施設で行っている。

教員及び学生は、「ふかがわ夏祭り」、「ふかがわ氷雪まつり」、「あさひかわキッズタウン」等の地域イベントに積極的に参加するほか、ボランティア有志としても活動している。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 地域貢献の取り組みとしては、特に地域社会の行政、農商工業、教育機関及び文化団体等と交流活動を活発に行っている。北海道で唯一の農業系短期大学であることから、農業高等学校との連携が特に強い。また、教員は、深川市の地域活性化を目指した「中心市街地活性化協議会」、「移住・定住推進協議会」、「ふかがわ地域資源活用会議」の委

員や「きたそらち新産業協議会」、「深川国際交流協会」の理事になっている。さらに、教員及び学生は様々なボランティア活動を通じて、地域に貢献している。